

# 研修について



阿部貞夫

△研修ということばの原義△

○研修——和製のことば(漢語では

ない)。「○修」という漢

語は百ほどあるが、この

語はない)

昭和二十四年一月、「教育公務員

特例法」と同時に誕生した。

第三章 研修

第十九条 教育公務員は、その職員

を遂行するため、絶えず

研究と修養につとめなけれ

ばならない。

研究と修養につとめなけれ

ばならない。

研究——徳性をかん養し、

人格を高めること。

私は、昨年五月八日から六月十二日

までの三十六日間、国立教育会館筑波分館における「教職員等中央研修講座」(文部省初等中等教育局主催)を受講させていただいた。

冒頭に記したのは、その五日目、分館長鈴木奎吾先生の講話の記録の一部を抜き出したものである。

先生は、また「教育とは、魂と魂との接触交流を契機として、人間相互の共鳴共感によって起こる生命の昇華作用である」とも言っておられた。

更に、学と教の文字の分析を通して「師の後姿や横顔が、子の手本となる」と書いておられた。

教育の観点から入り、東洋哲学の深淵にまで触れさせられた感じがして、知らず知らずのうちに背伸びの伸びる思いがしたのを、つい昨日のことのよ

うに思い出す。

私は、今年で教員生活二十二年目であるがそのほとんどの年月を音楽(特に合奏)の指導に力を注いできた。

十数年前のことであるか、東京芸大のK先生を訪ねて、選曲のご指導をいたいた時のことである。

選曲に当たっては、手持ちの楽器の種類、数、児童の演奏能力、私個人の指導力などが大事な要件になるので、それまでに手がけた曲の録音をいくつか用意していくつて、まず聴いていただいた。

K先生曰く「かみそりの刃のように研ぎすまされた演奏ですね」

私は、おほめの言葉をいたいたとところが、だんだん考えてみると、

ところが、だんだん考ええてみると、

私は、おほめの言葉をいたいたと

思ひ、内心とてもうれしかった。

これは、私の不明のいたすところを指摘された言葉にはかならなかつたわけである。今になって、大変恥かしい思いをしている次第である。

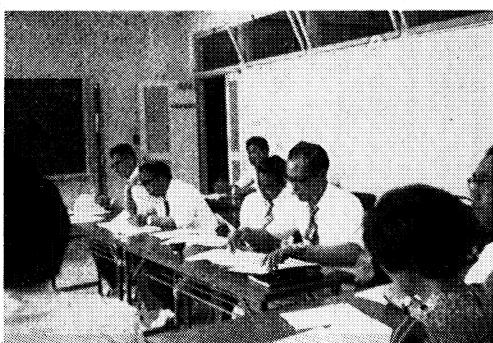
つまり、音のまちがいはなく、音量の増減もほぼよく、すつきりとした演奏になつてゐた。が、そこに子供たちの心は入っていない。強いて入つてゐるというなら「まちがつたら叱られる。絶対にまちがつたらダメだ」といふ緊張した気持ちそのものである。

子供なりに曲を受けとめ、それをすなおに表現させる指導が欠けていたわけである。

これは、とりもなおさず、指導者である私個人の音楽そのものに対する研究不足、実際の指導に当たる時の研究不足、作曲者やその曲に対する研究の粗末さ、作曲者やその曲に対する研究不足、実際の指導に当たる時の自身のまちがつた指導の姿勢などをひ歴したものにはかならなかつたわけである。

「子供は親の鏡」という。教師と児童の関係についても、同じことがいえると思う。

児童をよりよく伸ばすために、たゆまぬ研究と修養を積んでいかねばならないと思っている。私の後姿や横顔が子供たちのために、少しでもよい手本となるよう念じつつ……。



法規演習(筑波大)